

## 要 約

- (1) ヒメジャコの生殖巣部湿重量調査は今年度は5～9月まで実施した。生殖巣部湿重量比(GWR)は7月に $50.4 \pm 6.2\%$ で最高値を示し、9月には $16.9 \pm 2.3\%$ と期間中の最低値を示した。
- (2) ヒメジャコの定点での成長量は穿孔長径値で調査開始時 $1.05 \sim 1.40$  cm ( $\bar{x} = 1.23 \pm 0.11$  cm)であったものが5年間で $7.90 \sim 8.85$  cm ( $\bar{x} = 8.42 \pm 0.39$  cm)となった。
- (3) ヒメジャコの放流効果調査(放流技術開発試験)は、埋め込み法、折衷法、人工基質法(セメントブロック法)の3法を試験及び継続調査した。
- (4) シャコガイの生息状況調査については今年度は西表島と新城島の上地との海域で大型シャコガイの生息状況を調査した。調査個体はヒレジャコ8個体、シラナミ9個体、シャゴウ2個体であった。調査個体は全て採集し石垣島川平湾への移殖を試みた。
- (5) シャコガイの種苗生産に関する試験は、ヒメジャコについては切り出し-アンモニア処理法を中心として採卵し、幼生飼育は例年とほぼ同様の方法で行ない、1 mmサイズの稚貝を20.6万個体種苗生産した。大型シャコガイであるヒレジャコとシャゴウは8月15、16日に切り出し-アンモニア処理法で採卵を試みたが、生殖巣部の発達が良くなく採卵及び幼生の飼育が出来なかった。
- (6) 底生生物量調査は8月29日に川平湾浅部の7地点でおこなった。また同一資料を用いて粒度組成と陸上の湾内流入を調べるために塩酸処理後の残留率を調べた。
- (7) 水質等環境調査は、保護水面区域内で下記の項目について実施した。  
水温、比重、天気率、風向、栄養塩類等の水質、クロロフィル量、透明度。

## 参考文献

- Kawaguti, S. Masuda, Y. and Murakoshi, M. (1982): *Bulletin of Kawasaki College of Allied Health Professions*, 2, 101-108.
- 日本海洋学会編(1980): 海洋環境調査法、恒星社厚生閣。
- 日本水産資源保護協会編(1980): 新編水質汚濁調査指針、恒星社厚生閣。
- 沖縄県水産試験場八重山支場(1975): 昭和49年度川平保護水面調査報告書、13 pp。
- (1976): 昭和50年度同誌上, 21 pp.
- (1977): 昭和51年度同誌上, 24 pp.
- (1978): 昭和52年度同誌上, 15 pp.
- (1979): 昭和53年度同誌上, 16 pp.
- (1980): 昭和54年度同誌上, 32 pp.
- (1981): 昭和55年度同誌上, 36 pp.
- (1982): 昭和56年度同誌上, 20 pp.
- (1983): 昭和57年度保護水面管理事業調査報告書、1-29.
- SCOR-UNESCO W. G.17 (1966): *Determination of photosynthetic pigments. UNESCO Manog. Oceanog. Methodol.*, 1, 9-18.
- Strickland J.D.H. and Parsons T.R.(1972): *A Practical Handbook of Seawater Analysis*, Fisheries Research Board of Canada.